

I 推進計画の見直しに当たって【改定案 第2章P6~9】

1 国の動向

- ・2015年10月 スポーツ庁発足
- ・2017年3月 第2期スポーツ基本計画策定

2 札幌市を取り巻くスポーツ環境の変化

- ・2014年11月 冬季オリンピック・パラリンピックの招致表明
- ・2016年3月 さっぽろグローバルスポーツコミッション設立
- ・4月 スポーツ局の新設
- ・2017年2月 第8回冬季アジア札幌大会の開催
- ・2019年9月 ラグビーワールドカップ2019の開催
- ・2020年7月 東京2020オリンピック(サッカー競技)の開催

3 超高齢社会の到来、人口減少

- ・健康寿命の延伸のためにはスポーツが果たす役割が大きくなる

4 見直しの必要性

- ◆国が平成29年3月に第2期スポーツ基本計画を策定したため、その内容を参照する必要がある。
- ◆札幌市を取り巻くスポーツ環境の現状を把握し、今後の取り組むべき方向性や成果指標などの見直しを行う必要がある。
- ◆計画策定後にオリ・パラの招致を正式に表明したため、招致に向けた取組を計画に反映する必要がある。

II スポーツを取り巻く現状と課題【改定案 第3章P10~36】

1 これまでの達成状況と課題

目標1 スポーツを通じて市民、誰もが元気に

ライフステージや体力、障がいの有無に関わらず市民の誰もが生涯にわたって、スポーツを通じ、健康や生きがいを得る機会をつくること、また、スポーツをするための環境を整備して、その情報をわかりやすく発信することに取り組んできた。

● スポーツ実施率

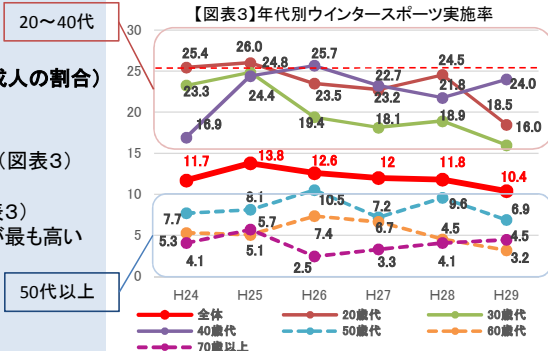
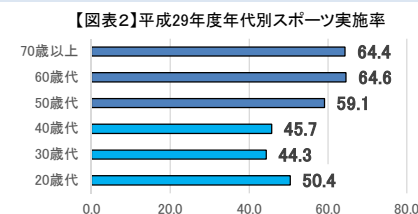
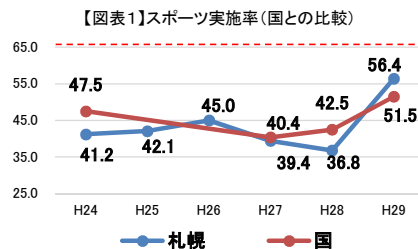
(週に1回以上スポーツをする成人の割合)

【現状】

- ・目標値65%に対して平成29年度は56.4%(図表1)
- ・平成29年度は、アンケートの聞き方を国に合わせて修正

【分析】

- 年代別スポーツ実施率(図表2)
  - ・20~40歳代までの実施率が他の年代と比べて低い。
  - ・60歳代以上はスポーツ実施率が高い。
- 種目別スポーツ実施率
  - ・「ウォーキング・散歩」といった軽い運動や、体操、サイクリングなど一人で気軽に出来る種目が高い。
- スポーツ実施の阻害要因
  - ・30~40歳代の50%が仕事や家事が忙しいと回答
- 今後行いたいスポーツ
  - ・全ての年代で「ウォーキング・散歩」が最も高い。



● ウインタースポーツ実施率

(年に1回以上ウインタースポーツをする成人の割合)

【現状】

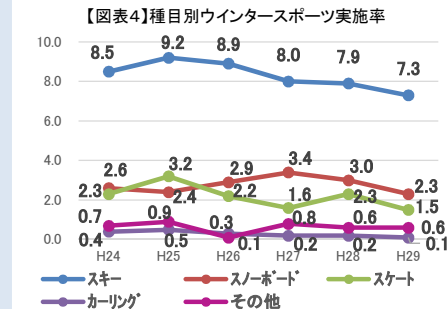
- ・目標値25%に対して平成29年度は10.4%(図表3)

【分析】

- 年代別ウインタースポーツ実施率(図表3)
  - ・20~40歳代までの実施率が高く、40代が最も高い
  - ・50歳以上になると実施率は低くなる

② 種目別ウインタースポーツ実施率(図表4)

- ・スキーが7.3%と最も高く、次いでスノーボード2.3%
- ③ ウインタースポーツ実施の阻害要因
  - ・「用具購入」、「施設利用料」などの経済的な理由が多い。
  - ・60歳以上は「病気・体力・年齢」が最も多い。
- ④ 今後行いたいウインタースポーツ
  - ・20~30歳代は「スノーボード」が最も多い。
  - ・各年代において「カーリング」は満遍なく回答がある。



【課題】

- ◆健康寿命の延伸が大きな命題となる中で、ニーズが高い「ウォーキング・散歩」に代表される、気軽にできるスポーツに親しめる環境整備が必要
- ◆「ウォーキング・散歩」が最も行われている一方で、積雪期間においては、このような屋外で行う運動が制限される。
- ◆スポーツ実施率が低い20~40歳代に代表されるビジネスパーソンや子育て世代に対する取組が必要
- ◆ウインタースポーツ特有の阻害要因に経済的要因がある。
- ◆ウインタースポーツの競技性から、60歳代以上は「病気・体力・年齢」を阻害要因に挙げている人が多く、高齢者に対しウインタースポーツの実施を推奨することは、健康づくりに直結するものではない可能性がある。

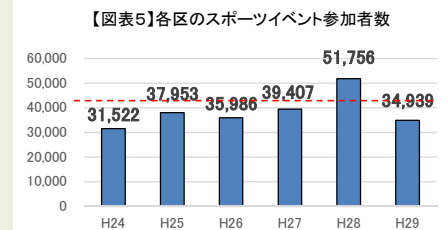
目標2 スポーツを通じて地域が元気に

地域の活動拠点などで、主体的にスポーツに取り組むことができる環境をつくるとともに、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」の視点から地域コミュニティの醸成に取り組んできた。

● 各区で実施するスポーツイベント参加者数  
(各区が主催・共催・後援(支出を伴うもの)しているスポーツイベントの参加者数)

【現状】

- ・目標値年間50,000人に対し平成28年度に51,756人達成(冬季アジア大会開催による区民応援ツアー等を加算)
- ・平成29年度は34,939人でそれ以前の水準に低下。



【課題】

- ◆地域が自主的に健康づくりや体力づくりに関する活動を行うための支援が必要である。
- ◆引き続き地域スポーツクラブなどと連携し、各区や地域単位で実施するスポーツイベントの開催や支援を行うことで、世代間交流や地域間交流による活動を促進する必要がある。
- ◆スポーツイベントを支える担い手であるボランティアに市民が参加しやすい環境を整備する必要がある。

目標3 スポーツを通じて「さっぽろ」が元気に

「さっぽろ」の豊富なスポーツ資源の活用や大規模国際大会の開催によって、都市ブランドを更に高め、国内はもとより世界に向けて札幌市に魅力を発信することに取り組んできた。

● 新たに開催する大規模スポーツ大会

(選手、役員、観客合わせて数千人規模の大会の開催数)

【現状】

- ・目標値は平成34年度までに10大会の開催。平成29年度時点で8大会を開催。
- ・今後開催されるラグビーワールドカップ2019や東京オリパラ2020などで達成する見込み。



【課題】

- ◆今後はイベント開催だけでなく、観光振興、交流人口拡大等の経済・地域の活性化が重要

2 第2期スポーツ基本計画から取り入れる視点

(1) 第2期スポーツ基本計画の基本方針

- ①「人生」が変わる!
- ②「社会」を変える!
- ③「世界」とつながる!
- ④「未来」を創る!

(2) 4つの施策

- ①「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大
- ②スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現
- ③国際競技力の向上
- ④クリーンでフェアなスポーツの推進

札幌市が取り入れる視点

- ◆スポーツ参画人口の拡大
- ◆スポーツを通じた共生社会の実現
- ◆スポーツを通じた経済・地域の活性化

3 札幌市の特色をいかして強化する視点

◆ウインタースポーツの振興

・ウインタースポーツ文化を継承していくため、子どもの頃からウインタースポーツに親しめる機会を提供する。

◆冬季オリ・パラの招致

・招致活動や、国際大会の開催を通じて、アジア、世界に誇るウインタースポーツ拠点都市を目指す。

4 課題のまとめと今後の方向性

(1) 課題のまとめ

- ・スポーツ実施率65%の達成に向けた取組が必要
- ・ウインタースポーツ文化を根付かせていくためにもウインタースポーツ実施率の向上が必要
- ・共生社会の実現に向けて障がい者や高齢者も安心してスポーツを行うことができる環境が必要
- ・スポーツツーリズムなど、スポーツの力による経済や地域の活性化が必要

上述の1から4(1)までの状況を踏まえ、今後の方向性(3目標)についてスポーツ推進審議会で検討

(2) 今後の方向性

「市民」へのアプローチ

子ども、ビジネスパーソン、女性、高齢者などあらゆる市民が、「する」、「みる」、「ささえる」といった、それぞれのライフステージや活動の目的に沿った形でスポーツに参加することで、すべての人がスポーツの価値を享受し、人生を楽しく健康で生き生きとしたものにしていくことができます。

「さっぽろ」全体へのアプローチ

スポーツを通じて人々がつながり、スポーツの価値を共有することで、他者への理解を促し、共感し、敬意を生み、多様な人々とともに生きる共生社会の実現を目指します。また、スポーツを地域の魅力づくりやまちづくりの核として活用することで、経済や地域を活性化し、活力みなぎる「さっぽろ」を目指します。

「世界」へのアプローチ

冬季オリ・パラ招致や国際大会の開催などを通じて、アジア、世界に誇るウインタースポーツ拠点都市を目指すとともに、さっぽろの魅力の世界に発信し、世界都市として北海道をリードしていくまちを目指します。

スポーツの力でさっぽろの「未来」をつくる

引き続き「スポーツ元気都市さっぽろ」の実現を目指す

III 基本理念と目標【改定案 第4章P37～40】

1 現行の基本理念・目標

**スポーツ元気都市さっぽろ** —スポーツを通じて、市民が、地域が、さっぽろが元気に—

目標1 スポーツを通じて**市民**、誰もが元気に  
 目標2 スポーツを通じて**地域**が元気に  
 目標3 スポーツを通じて「**さっぽろ**」が元気に

札幌市を取り巻くスポーツ環境の変化  
(第2章-2)

- ◆冬季オリ・パラの招致表明
- ◆国際的スポーツイベントの開催決定
- ◆さっぽろグローバルスポーツコミッション設立
- ◆スポーツ局の新設

第2期スポーツ基本計画から取り入れる視点  
(第3章-2)

- ◆スポーツ参画人口の拡大
- ◆スポーツを通じた共生社会の実現
- ◆スポーツを通じた経済・地域の活性化

札幌市の特色をいかして強化する視点  
(第3章-3)

- ◆ウインタースポーツの振興
- ◆冬季オリ・パラの招致

2 見直し後の基本理念・目標

—スポーツの力でさっぽろの「未来」をつくる— **スポーツ元気都市さっぽろ**

- 目標1 スポーツの力で「**市民**」が **かがやく**  
 目標2 スポーツの力で「**さっぽろ**」を **かえる**  
 目標3 スポーツの力で「**世界**」へ **つながる**

3 見直しによる新たな成果指標

	成果指標	設定の考え方	基準値	現状値	目標値
			平成24年度	平成29年度	2022年度
全目標共通	①スポーツ実施率	市民のスポーツ実施状況を示す指標	41.2%	56.4%	65.0%
	【新規】※1 ②障がい者のスポーツ実施率		-	43.7%	50.0%
	【調査対象年齢を変更】※2 ③ウインタースポーツ実施率		-	20.1%	25.0%
	【新規】※3 ④スポーツ目的の来札外国人観光客数	大会誘致やシティプロモートによる経済波及効果を示す指標	-	205,000人	300,000人

※1: 今後力を入れていく障がい者スポーツの指標として新たに設定

※2: ウインタースポーツはスキーやスケートのように一般的に競技性が高く、高齢者は実施が困難な場合が多いため  
 ・今後は「健康」の視点ではなく、「ウインタースポーツ文化の継承」という視点での指標と位置付け  
 ・調査対象年齢を、従来の成人すべてから、若い世代と小学生の子を持つ親世代である40歳代に着目し、18歳から49歳までに変更

※3: スポーツによる経済波及効果を示す指標として新たに設定

IV 目標達成に向けた方針・施策【改定案 第5章P41～65】

目標1 スポーツの力で「市民」がかがやく

市民の誰もが生涯にわたって、スポーツの力で、心身の健康増進や生きがいに満ちた生き方を実現できる社会を目指します。

方針1 ライフステージや体力に応じたスポーツ活動の推進

幼少期から高齢期まで、市民誰もがライフステージや体力に応じてスポーツを楽しみ、健康や生きがいを得る機会をつくります。

施策1 子ども、高齢者、子育て世代、ビジネスパーソンへのスポーツ参加を目指します **強化:スポーツ参画人口の拡大**

- ＜主な取組内容＞
- ・子どもがスポーツに参加する機会の提供 ・ビジネスパーソンや女性に対するスポーツ気運醸成
  - ・高齢者がスポーツを楽しむ機会の提供

施策2 スポーツに親しむための場所や機会を充実させます

- ＜主な取組内容＞
- ・安心・安全なスポーツ施設の提供 ・スポーツを実施する機会の提供・情報発信
  - ・官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究

施策3 ウィンタースポーツを振興します **強化:ウィンタースポーツの振興**

- ＜主な取組内容＞
- ・ウィンタースポーツの裾野拡大に向けた取組 ・ウィンタースポーツの経済的負担の軽減
  - ・ウィンタースポーツ大会の情報発信

方針2 スポーツを通じた健康増進

体力の向上、健康の増進のため、市民が日常生活の中で健康行動を継続的に実施できるような取組について検討します。

施策4 スポーツを通じて市民生活の質の向上を図ります

- ＜主な取組内容＞
- ・市民の自主的な健康づくりの推進 ・健康づくりセンターの活用

施策5 冬季における運動習慣を推進します

- ＜主な取組内容＞
- ・気軽に行うことのできるウィンタースポーツの普及 ・冬の暮らしをいかした健康づくりの推進

方針3 様々な形・場でのスポーツ参加を促進

スポーツを「する」ことだけでなく、「みる」「ささえる」といった関わり方を通して、様々な人とのつながりをもたすことでスポーツに参加する人の増加を図ります。

施策6 地域での取組を支援し地域コミュニティの醸成につなげます

- ＜主な取組内容＞
- ・地域におけるスポーツ活動の支援 ・区の特徴やスポーツ施設を活用したスポーツの普及促進

施策7 スポーツを支える人材を育成し活動を促進します

- ＜主な取組内容＞
- ・スポーツボランティアの育成と推進 ・スポーツ推進委員の活動促進 ・クリーンでフェアなスポーツの推進

施策8 トップスポーツやアスリートとの連携を図ります

- ＜主な取組内容＞
- ・アスリート等の派遣によるスポーツ機会の提供 ・アスリートの育成支援 ・プロスポーツチームとの連携

目標2 スポーツの力で「さっぽろ」をかえる

障がいの有無や年齢、国籍等を問わず、相互に人格と個性を尊重し支えあい、人々の多様なあり方を認め合う精神を育むことで共生彩会の実現を目指すとともに、スポーツと観光を融合したスポーツツーリズムの推進など、新たな付加価値を生み出すことで、経済や地域の活性化を目指します。

方針4 スポーツを通じた共生社会の実現

多様な人々がスポーツを通じて社会に参加することができるよう、スポーツを楽しむ環境を充実させるとともに、そのための活動を支援します。

施策9 障がい者スポーツを振興します **強化:障がい者スポーツの振興**

- ＜主な取組内容＞
- ・障がい者スポーツの普及・振興の促進 ・障がい者スポーツの拠点づくり
  - ・障がい者スポーツ大会の開催や選手派遣への支援 ・スポーツ施設のアクセシビリティ向上

施策10 スポーツを通じた国際交流、異文化理解を推進します

- ＜主な取組内容＞
- ・姉妹都市との国際スポーツ交流の実施 ・スポーツを通じた国際交流の推進

方針5 スポーツを通じた経済・地域活性化

スポーツ資源を地域の魅力づくりやまちづくりの核とすることで、地域や経済の活性化に貢献します。また、スポーツツーリズムを推進するとともに、持続性のあるスポーツイベントや大会・合宿の誘致等を行うことで交流人口の拡大を目指します。

施策11 札幌の特色をいかしたスポーツツーリズムの推進、交流人口の拡大に努めます **強化:経済・地域の活性化**

- ＜主な取組内容＞
- ・さっぽろグローバルスポーツコミッション(SGSC)による取組 ・市民スポーツ大会の開催支援

施策12 札幌のスポーツ資源をいかしたスポーツの楽しみ方を提供します

- ＜主な取組内容＞
- ・札幌の魅力をいかした観光資源の活性化検討 ・プロスポーツチームとの連携(再掲)
  - ・官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究(再掲)

目標3 スポーツの力で「世界」へつながる

冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の招致や、国際大会の開催などを通じて、アジアそして世界におけるウィンタースポーツの拠点都市としてのブランドを高めるとともに、札幌の魅力の世界に向けて発信します。

方針6 「さっぽろ」の魅力を世界に発信

大規模スポーツイベント等を通じて、シティプロモートの展開、開催によるレガシー構築を図り、札幌の魅力をより一層高めめます。

施策13 国際大会やスポーツイベントを通じて国内外へ札幌の魅力を発信します

- ＜主な取組内容＞
- ・ラグビーW杯2019、東京2020サッカーの開催 ・国際スポーツ会議の誘致 ・SGSCによる取組(再掲)

方針7 世界が憧れるウィンタースポーツ拠点都市へ発展

冬季オリンピック・パラリンピックの招致や、国際大会の開催などを通じてウィンタースポーツ拠点都市、そして世界都市としてのブランドを高め、その魅力を世界に発信する。

施策14 オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進します **強化:冬季オリパラ招致に向けた取組**

- ＜主な取組内容＞
- ・市民の招致機運醸成に向けた取組 ・オリンピック・パラリンピック教育の推進

施策15 札幌ブランド、シビックプライドを醸成します

- ＜主な取組内容＞
- ・スポーツを核としたまちづくりの研究 ・ナショナルトレーニングセンター誘致に向けた取組
  - ・地元出身アスリートの発掘・育成体制等の研究